

AAR のシリア難民・避難民支援のご報告

シリアでは、2024年12月にアサド政権が崩壊し、新たな暫定政府の下で復興が始まっていますが、14年に及んだ紛争により、社会経済の基盤は大きく損なわれました。安定しない治安状況、住居やインフラの損壊、医療や教育サービスの不足など、さまざまな課題があります。旧政権の崩壊以降、国内避難民および難民を合わせて300万人以上が帰還していますが、現在も約1,650万人が人道支援を必要としています。

AAR Japan [難民を助ける会] は、2012年から隣国トルコへ逃れた方々への支援を、2014年からはシリア国内で避難する方々への支援を開始し、地雷回避教育、食糧配付、障がい者支援、農業支援、コミュニティセンターの運営などさまざまな活動を行ってきました。

政権崩壊後の2025年4～5月は、シリア国内で活動している団体と連携し、帰還民や高齢者など脆弱性の高い人々約15,000人に対して、米や砂糖、油、レンズ豆などの食料と、石けんや洗剤、バケツなどの衛生用品を配付しました。食料や衛生用品を受け取った人からは、「こんなにも重い物資を運んで来てくれて、本当にありがとう」「ようやく安心できました」「多くの親切な皆さん、ご尽力に心から感謝します」などと続々とメッセージが寄せられました。



写真：ダマスカス市での配付の様子

また2024年10月から1年間、シリア国内で活動している団体と連携し、障がいのある子どもなどを対象に、車いすなどの補助具やリハビリテーションサービス、生活必需品を提供

する個別支援も実施しました。障がいがある子どもとない子ども、また避難民と受け入れ地域の子どもたちが一緒にセッションに参加する心理社会的サポート（心の不安を一人で抱えることなく社会生活を送れるようになるための支援）も継続的に行いました。

個別支援を受けた子どもの保護者からは「メガネを受け取ったあと、よく勉強するようになった」「体に合う靴を受け取ってから体調が良くなった。学校の同級生やきょうだいからのいじめも減った」という声がありました。また、心理社会的サポートに参加した子どもの保護者からは「内気で引っ込み思案だったが、社会的になり自発性が芽生えた」というコメントも寄せられました。



写真：心理社会的サポートのセッションに参加する子どもたち 小道具を一緒に使うゲームや、感情をイラストで表現するロールプレイを行い、貴重な交流の場となりました

祖国に帰還した人々は、故郷に戻れた喜びや希望を胸に抱く一方で、破壊し尽くされた街の前に、不安や戸惑いも感じています。電気や水もままならず、住まいも病院も不足し、多くの子どもたちが学校に通えていません。紛争中に至る所に埋められた地雷も、人々の生活再建を阻んでいます。AAR は今後も、そうした人々が少しでも安心して過ごせるよう、障がいのある方々への支援や地雷対策を中心に活動を続けてまいります。引き続き、シリアの人々にご関心をお寄せいただければ幸いです。